



神戸天然物化学株式会社

2019年3月期第3四半期 決算補足説明資料

証券コード：6568

2019年2月12日



- 売上高は、全社としては概ね予定通りに推移するも、損益面では計画進捗のピッチ鈍い
- バイオ分野は引き続き好調を維持。一方、医薬分野は開発ステージ案件伸び悩みで前年比減収
- EBITDAマージンは引続き30%超を維持

経営成績の推移

(百万円)	2017/3期	2018/3期		2019/3期		前年比較	2019/3期 進捗率
		3Q累計	通期	3Q累計	通期見通し		
売上高	4,768	4,641	6,312	4,426	6,450	▲4.6%	68.6%
機能材料分野	2,358	2,070	2,962	2,122	2,900	+2.5%	73.2%
医薬分野	1,757	2,251	2,881	1,476	2,900	▲34.4%	50.9%
バイオ分野	652	319	468	828	650	+159.6%	127.4%
営業利益	708	1,071	1,222	782	1,300	▲26.9%	60.2%
経常利益	740	1,085	1,208	812	1,300	▲25.2%	62.5%
経常利益率	15.5%	23.4%	19.1%	18.4%	20.2%	▲5.0pp	-
当期純利益	484	717	900	601	920	▲16.1%	65.4%
EBITDA*	1,544	1,648	2,004	1,330	2,164	▲19.3%	61.5%
EBITDAマージン*	32.4%	35.5%	31.7%	30.1%	33.6%	▲5.4pp	-

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



- 自己資本比率は77.4%。現預金は新研究所の投資に一部充当
- 在庫増はあるも、期末に向けて出荷の集中する医薬分野が中心

財政状態の推移

(百万円)	2017/3期	2018/3期	2019/3期 3Q	前期末差異	増減率
流動資産	3,185	7,124	5,048	▲2,075	▲29.1%
現預金	1,262	5,413	3,231	▲2,182	▲40.3%
棚卸資産	941	975	1,123	+148	+15.2%
その他	980	735	693	▲41	▲5.7%
固定資産	5,653	5,563	6,731	+1,167	+21.0%
総資産	8,838	12,688	11,780	▲907	▲7.2%
負債	4,654	3,951	2,666	▲1,285	▲32.5%
有利子負債	3,236	2,256	1,871	▲384	▲17.1%
その他	1,418	1,695	794	▲900	▲53.1%
純資産	4,183	8,736	9,114	+377	+4.3%
負債純資産合計	8,838	12,688	11,780	▲907	▲7.2%

設備投資、借入金返済、税金支払などに充当

医薬分野での在庫を中心に積増し

新研究所・本社用の不動産取得

未払費用/税金の支払が集中

自己資本比率77.4%

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を2018/3期の期首から適用したものと表示しております。



＜参考＞ 2019年3月期第3四半期経営成績（四半期別）

- 第3四半期のみでは、前年比14%減収、39%経常減益
- 一方、対第2四半期比較においては、医薬品・バイオの伸長から採算が改善

経営成績の推移

(百万円)	2018/3期				2019/3期		
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q
売上高	1,606	1,278	1,755	1,671	1,405	1,518	1,502
機能材料分野	710	755	605	891	812	694	615
医薬分野	866	439	945	630	355	552	567
バイオ分野	29	84	205	149	237	271	318
営業利益	388	239	443	150	325	188	268
経常利益	405	246	434	123	348	197	265
経常利益率	25.2%	19.3%	24.7%	7.4%	24.8%	13.0%	17.7%
当期純利益	284	162	271	183	255	151	194
EBITDA*	573	431	643	356	498	371	460
EBITDAマージン*	35.7%	33.7%	36.7%	21.3%	35.5%	24.5%	30.6%

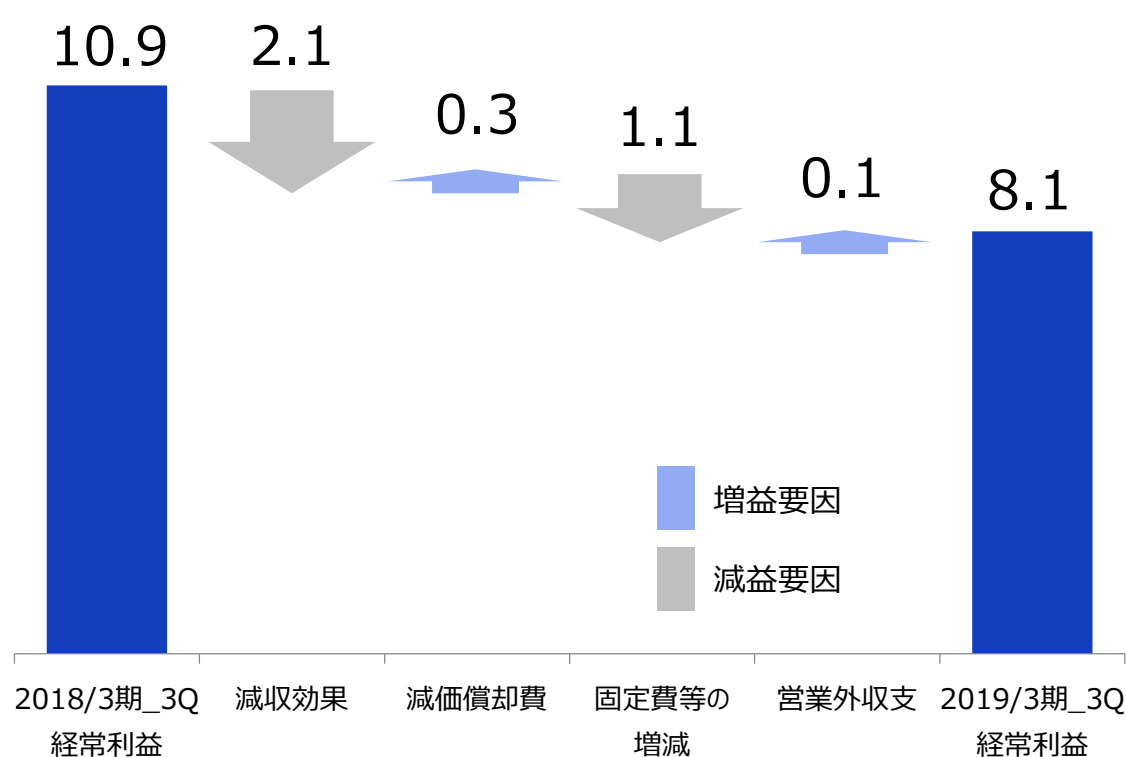
* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



- 操業度改善効果はあるも、医薬品減収の影響は前年比経常減益の主因に
- 先行投資面でも、持続的成長のための研究開発費等の増加が利益圧迫要因に

2019年3月期_第3四半期 経常利益の増減要因

(億円)



- 減収効果 $\Delta 2.1$ 億円
 医薬分野の売上高減少が影響
 操業度の改善等により、採算性の改善
- 減価償却費の減少 $+0.3$ 億円
- 固定費等の増加 $\Delta 1.1$ 億円
 研究開発費の増加 $\Delta 1.2$ 億円
 外形標準課税適用 $\Delta 0.3$ 億円
- 営業外収支の改善 $+0.1$ 億円

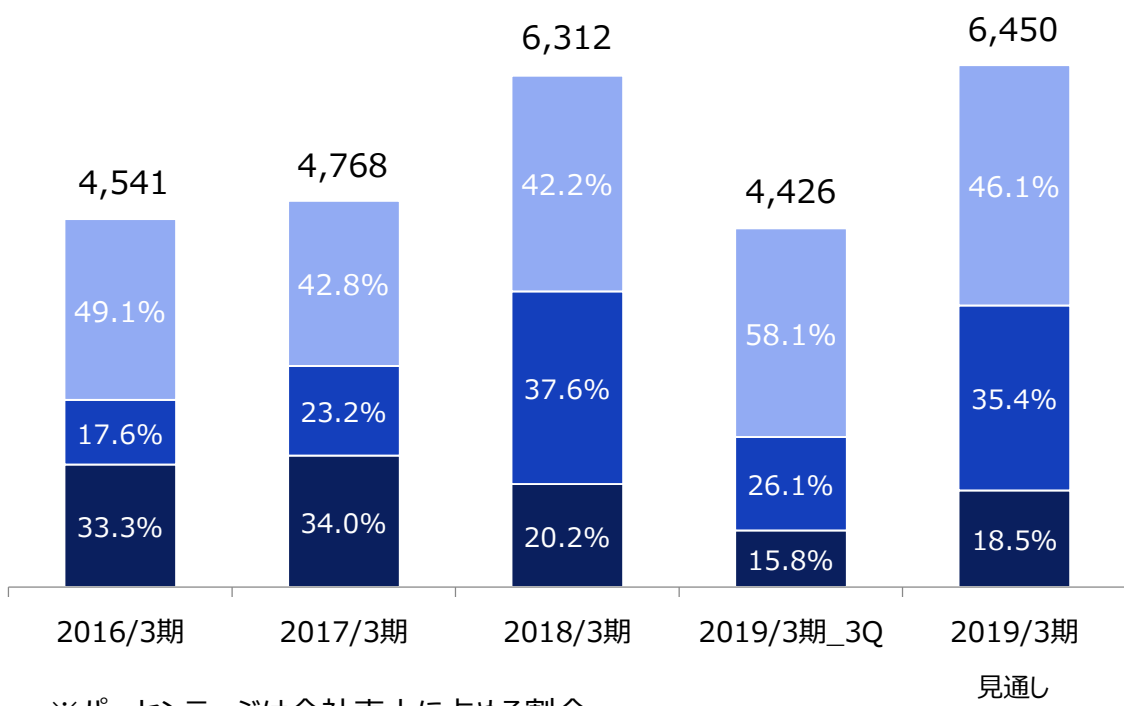


ステージ別売上高比率

- 2019年3月期第3四半期は、堅調な量産ステージが売上高を牽引
- 一方、研究、開発ステージはスポット受注端境期の影響から相対的に伸び悩み
- 対計画で見ても、量産ステージの伸長は想定以上

ステージ別売上割合推移

(百万円) ■ 量産 ■ 開発 ■ 研究



- 全社ステージ別売上高は概ね予定通りに推移
- 機能材料分野では、予定通りに量産ステージを中心に展開。増産効果が期待できる体制を継続
- 医薬分野では、量産ステージが計画を上回って推移。一方、開発ステージは軟調に推移
- バイオ分野は特に開発・量産ステージが計画を上回り、当期の成長の原動力に

※パーセンテージは全社売上に占める割合



< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先
経営企画室 IR担当
078-993-2203 (代表)
Knc-IR@kncweb.co.jp